

だいらあぐ

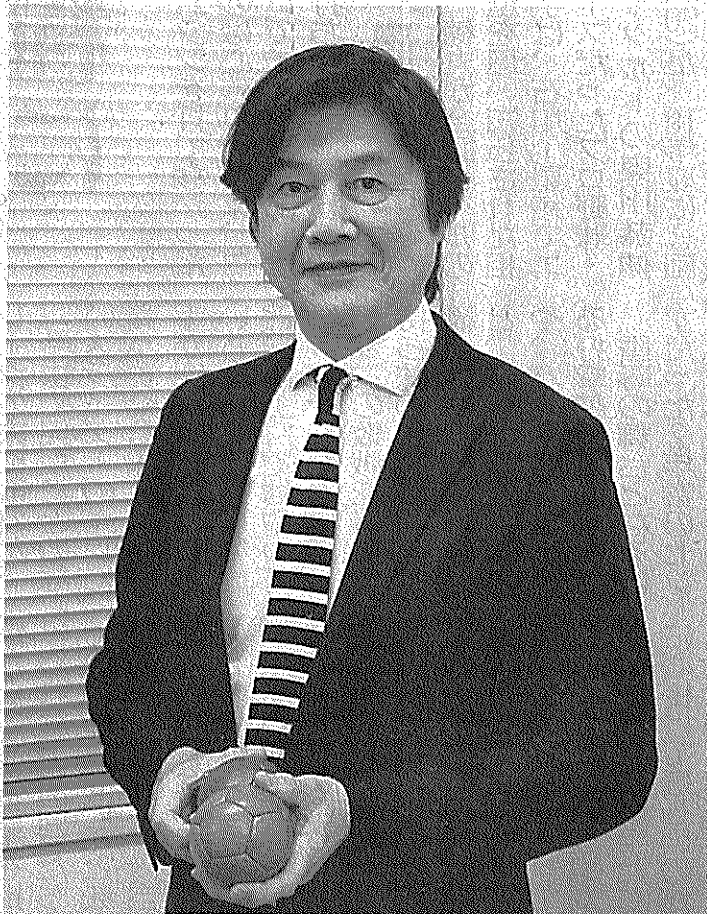
東京彩人記

2021年、コロナ禍の中で東京パラリンピックが開催され、大会後は「レガシー」の継承が課題とされている。一般社団法人「日本パラスポーツ推進機構」(中央区日本橋茅場町)は、パラスポーツの普及を図りながら、スポーツを楽しむには健康と自立が不可欠として「障がい者の働き方改革」も掲げる。代表理事の砂野吉貞さん(64)に理念や活動内容を聞いた。

【伊藤一郎】

機構を設立した経緯を教えてください。
以前、航空会社に勤務しており、その際に盲目で政治や経済などを議論する勉強会に参加していました。16年11月、この勉強会以来の付き合いだった公益財団法人「日本パラスポーツ協会(旧日本障がい者スポーツ協会)」副会長で「日本パラリンピック委員会」副委員長の高橋秀文さんから、障がい者スポーツのサポートなどが必要だと聞き、増やす取り組みをしよう促していききたいと

日本パラスポーツ推進機構代表理事 砂野 吉貞さん(64)



すなの・よしただ 1957年愛媛県生まれ。上智大卒。日本航空(JAL)、米国半導体メーカーを経て、経営コンサルティング会社も経営。趣味はジャズ。ビッグバンドでテナーサックスを担当。

自立や就労も支援

思っています。また、パラスポーツからウイングを広げて障がい者が関わる文化的な活動も支援していきたいと考えており、関連する事業も進めています。これまでの活動内容を教えてください。
例えば、17年8月、11月には障がいがある子どもたちが通う神奈川県立相模原中央支援学校で、ポッチャやフライングディスクの教室を教えるなど、全国的に障がい者就労を教える活動を行っています。例えば、17年8月、11月には障がい者がパラスポーツを通して、自立や就労を支援するフライングディスクの教室

21年のパラリンピックの取り組みは。大会期間を含む21年5月9日にJR東日本の協力を得て、「健康と障がいを考えるスペース」として、東京駅で「WELLS STATION TOKYO 2021」という展示イベントを開催しました。各種パラスポーツを紹介するコーナーやヘルスチェックの体験コーナーを設けたほか、パラ選手が使用する陸上競技用の車いすも展示しました。

今後どのように活動していきますか。
パラスポーツや障がい者が取り組む文化的な活動、就労支援施設で生産されている商品などを紹介する「バーチャル空間」のようなスペースを設けられないか模索しています。

記者の一言

「障がい者の働き方改革」は、新鮮で重要な視点だと感じた。今後も目に見える形で「レガシー」継承活動に期待したい。

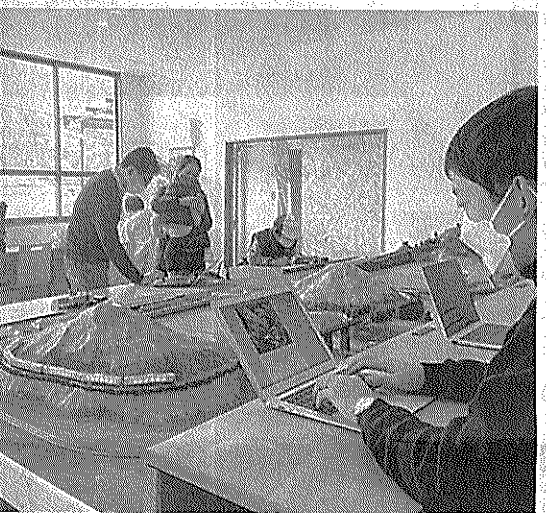
30年不朽の映画に

製作

横浜市中区のミニシアター「ジャック&ベティ」が2021年末にオープンから30年を迎えた記念として映画「誰かの花」を製作し、同館や渋谷区の「ユーロスペース」などで上映が始まった。同館の梶原俊幸支配人(44)は「記念としてのにぎやかさだけでなく、後世に残っていくような作品にしたい」と話している。

る

の深い映画製作会社「ガチンコ・フィルム」から持ちかけられ、製作委員会が立ち上がった。映画の主人公は、認知症の父とそれに振り回される母、そして亡き兄について葛藤を抱える男性。ある強風の日に実家の団地で起き



失道模型で遊ぶ横で仕事をするワークショップ参加者ら。埼玉県皆野町「Co-factory みなLABO」で

タカラヅカOGが被災地支援



3月10日

毎日新聞か

タカラヅカOGによる東日本震災チャリティコンサート「忘れない未来への手紙」を3月10日、東京都渋谷区のBunkamuraオーチャードホールで開催します。5回目の今回は、被災から10年の節目を超えます。悲しみを乗り越えてきた被災者らを追った毎日新聞の記事をショートストーリーにして朗読。後半は、歌で被災地を支援します。杜けあきさん、姿月あさとさん、北翔海莉さん、月影瞳さん、悠未ひろさんが出演します。俳優の川久保拓司さんがナレーションを務めます。公演はライブ配信でも視聴できます。
△日時 3月10日(木)午後6時半開演(同5時半開場) △会場 Bunkamuraオーチャードホール(東京都渋谷区道玄坂2、JR渋谷駅八チ公口徒歩約7分) △チケット 8500円(税込)